



安佐中学校だより

校訓 自主 敬愛

12月号

生徒会 新執行部がスタートしました。

12月12日（水）に新生徒会執行委員選挙が行われ、出口 響生徒会長をはじめとした新しい生徒会のリーダー11名が決定しました。

旧生徒会のスローガンは、「日進月歩」でした。朝（安佐）のボランティア清掃をはじめ数々のキャンペーンを実施し、生徒の自治活動を高めてくれました。

21日（金）、25日（火）は「生徒会リーダー研修」です。新執行部はどのような自治活動に取り組んでくれるでしょうか。旧執行部のこれまでの頑張りとする気いっぱいの新執行部に感謝と期待を込めて大きな拍手を送りたいと思います。

今年を振り返り

今年は、「辰年」でした。辰年は、「目標を高くもち、動く度に形を整え成長する年。志を高くもち、やさしく弾力のある心を育てよう。」と幕を開け、1年が経ちました。

今年は、ロンドンでのオリンピック・パラリンピックが心に残っている人も多いと思いますが、パラリンピックに出場した走り高跳びの鈴木徹選手の活躍が印象的でした。鈴木選手は、市立駿台甲府高校時代にハンドボールで国体3位をおさめ、筑波大学に推薦入学が決まっていたのですが、卒業寸前の2月に交通事故にあい、右膝約10cmを残して義足になりました。その中であって、家族や仲間の絆に支えられながら、生きる希望を失わず、粘り強く挑戦する姿は感動的でした。

生徒の皆さんにも、今年一年、いろいろなことがあったと思います。しかし、この安佐中学校で出会い、共に学びあえたことは共通しています。今年も安佐中で学ぶ皆さんにはたくさん「粘り強さ」や「絆」を大切にして努力する姿がありました。来る日も来る日も、日常の生活、学習、部活動の中で仲間とともに自分を磨き続けている皆さんから、中学生のもつ計り知れない可能性に感動を覚えるシーンに何度となく出会う1年であったことを嬉しく思います。

二つの「願」に想いをはせる冬休みに

冬休みは二つの「願」について考える良い機会です。

一つ目は、1年の始まりとして「願（がん）を懸ける」の「願」です。「願（がん）とは、「夢や目標に対する願いごと」です。

「1年の計は元旦にあり」と昔から言われるとおり、自分を見つめ、考え、叶えたい自分の焦点を定めることは大切です。

もう一つは、家族や親戚から皆さんへの「願（ねがい）を感じることです。暮やお正月など家族が集まることの多い冬休みです。

皆さんが誕生したとき、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、皆さん一人一人の誕生をこよなく喜び、健康と幸せを心から願ってくださったはずです。そうした中から、かけがえのない自分であり、その自分を成長させていくのは自分であることを考えてみてください。

来たる平成25年も、人と人とのつながりを大切にし、共に高め合える安佐中生として成長することを祈っています。

